

小倉悠紀の詩情

夏二景

(唐詩選・樂府詩集より)

山亭夏日

唐・高駢

緑樹陰濃夏日長
桜台倒影入池塘
水精簾動微風起
一架薔薇滿院香

山莊の夏

小倉悠紀

山亭夏日

緑樹陰濃かにして夏日長く
桜台影を倒にして池塘に入る、
水晶の簾動いて微風起こり
一架の薔薇滿院香し。

木々は緑に陰深く
夏の一日の永きかな
池には影をさかしまに
高樓揺るる小波、
簾は動く水晶の

きらめく光かすかにて
香りあふるる部屋ぬちに
たゞ一枝の花薔薇。

勅勒歌

無名氏

勅勒川 陰山下
天似穹廬
籠蓋四野
天蒼蒼 野茫茫
風吹草低見牛羊

勅勒のうた

小倉悠紀

勅勒の歌 無名氏

勅勒の川 陰山の下
天は穹廬に似て

勅勒の川流れゆく陰山のふもと
大空は天幕のごと四方の野をおおう
蒼空は果てしなく澄み

四野を籠蓋す

天は蒼蒼 野は茫茫

はるばると広がる野辺に
風吹きて草なびきゆけば

風吹き草低れて牛羊見る。

見えがくれする牛や羊の。